



音楽運動



日本音楽協議会 〒101-0061 東京都千代田区神田三崎町3丁目10-15 富士ビル505号室 発行人 松本敏之
TEL 03-3221-1821 FAX 03-6369-3057 URL <http://nichionkyou.org> Email nichion@yomogi.or.jp



司会を務めた普久原朝日さん
(那覇市議会議員・写真家)

笑顔であふれた沖縄音楽祭 全国から150名が結集



司会の皆さん(4人で交代で)

Naomariaさん 漢那彰野さん 前田遼一さん
ツガ・ソングライター 私鉄(沖縄バス) 那覇市職労

第55回はたらくものの音楽祭は、沖縄県那覇市の那覇文化芸術劇場なはーと小劇場で、9月21日(土)13時から22日(日)12時30分まで開催されました。全国からそして沖縄県内から、21日、22日それぞれ150人が参加しました。

【オープニング】沖縄県実行委員会のみなさん20人が「童神」。そして戦争も祖国復帰も知らない世代が沖縄の心を引き継いでいこうと「島人ぬ宝」。キーボードに三線あり、サンレシありの、にぎやかな演奏。沖縄県実行委員会のみなさんの仲の良さが光りました。



山城博治さん 伴奏の前花雄介さん
(後ろには辺野古ネーネズの皆さん。沖縄県実行委員長の高里鈴代さんも腕組んで歌っている。)

山城博治さんに、お礼の電話をかけ感想も聞きました。『楽しく歌えた。久しぶりに辺野古ネーネズにも会えてよかった。懇親会にも参加したかったけど申し訳ない。「沖縄今こそ立ち上がろう」「座りこめここへ」も日音協の歌と聞いてビックリした。CD もありがとうございました。若いころ「俺たちの道は」をよく歌っていたのを思い出した。長い闘争には、歌は必要と思う。呼んでくれてありがとうございました。』 (平良昌史)

ゲスト【前花雄介】
石垣市宮良出身で、八重山の歴史や自然、文化などを歌う。石垣島の野底岳に伝わる昔話、悲しい恋物語の「小さな島のある物語」は映し出される映像も美しい。太平洋戦争中、波照間島から日本軍により西表島に強制疎開させられ、青空学校すら止められてしまった、忘れないようにと「勿忘石(わすれないうし)」。ギターと三線と見事に使い分けてとても通る声。



会場でカチャーシーの練習

スポットライト「山城博治さんと歌う現場の闘いの歌」
山城博治さんが辺野古で、高江で、たたかいの現場でうたってきた歌を山城さん自身と「辺野古ネーネズ」が再現、会場も一緒に歌う。「沖縄、今こそ立ちあがろう」も「座りこめここへ」も日音協が大切にしてきたうたが沖縄の現場で生まれ変わる。

想いを込めた演奏が続く

2回に分けて報告します。1回目は中央企画・スポットライトとなります。

企画【メーデー合唱団】
僕らの名前は一つ「人民」ということを際立たせようとする演奏、林光さん詩曲の「ひとつ名前の兄弟の歌」に挑戦。後半の追いかけても面白い。「ガジュマルの木」は水戸に続いて2度目だが、三線も登場して沖縄色を意識した演奏。

企画【笠木博逸をうたう singing! singing!】
私たちに多くの作品を残して1年前にこの世を去った笠木博逸さんを、FMカンパニーのリードで会場みんなで歌いました。「On the road」そして沖縄の中学生の詩による「生きる」、遺作となった「戦争なんかをするために」、最後はもちろん「Let's singing a song」。



スポットライト【サンレラバイ】
沖縄の三線とウクレレをミックスした楽器サンレレは、単音弾きとコード弾き、どちらも弾くことができます。「アメイジング・グレイス」はうちなーぐちあり。「ONE」はサンレレとともに歌い続ける心を。歌もとても立派なもの。



企画【若い会員の交流会】
「日音協2024 Next Stages」として、日音協の全国の若い会員の交流会の演奏です。もうすぐ今日が終わるやうに残したことはないかいと、かりゆし58の「オワリはじまり」。そして笠木博逸スペシャルモデル「Let's singing a song」On the roadは北海道とも違う斬新なアレンジだった。

(こめんなさい。写真は4面に掲載します。)

(文責・松本敏之)



スポットライト【Naomaria】
楽器なしで路上で歌っていたNaomariaさん。ウクレレと出会い、「自分らしく」をテーマにうたいます。みんな同じ人間さみんな同じじゃない、いい自分らしく生きていこう、と「Only one」命の輝き。私が私を認める、と「私になりたい」。そして会場と一緒に「手をつなごう」。



第55回はたらくものの音楽祭全国交流会は、9月21日(土) 19時から、沖縄県青年会館で開催され、100人が参加しました。

冒頭、那覇市職労のおふたりによる「かぎやで風」で幕開けです。

本村文代さんの司会で、沖縄県実行委員会下地史彦副実行委員長があいさつ、そして乾杯の音頭をとりました。

ゲストの前花雄介さんも交えた楽しい懇談の後、那覇市職労の4人が沖縄民謡を演奏しました。

最後は会場全体が一体となった力チャ―シーで全国交流会を終えました。

第55回全国音楽祭100人チャ―シー

来年は長野で会いましょう～



2024日音協ソング応募曲です

【全18曲 応募順】

- 心文～知覧の空～ 詩・曲＝塚本茂子
- 半径三メートル 詩・曲＝塚本茂子
- JICA 勇気の道 詩・曲＝吉本健二
- マイナンバー恨み節 詩・曲＝B・B・B
- サギ撲滅運動の歌 詩・曲＝B・B・B
- No No War 詩・曲＝桑野功
- ゆるされぬこと 詩＝佐藤幸子&佐々木かな子
曲＝日音協東北北ブロック
合宿実行委員会
- 街に出て歌おう 詩＝下総大&佐藤康弘
曲＝東北北ブロック合宿実行
委員会
- 何もできない毎日が 詩＝佐藤康弘
曲＝後藤雅裕
- 僕らの暮らしは辛抱だらけ 詩・曲＝後藤雅裕
- 夕暮れ西の空 詩・曲＝山本英二
- 青年よ 灯をともし 詩・曲＝高林克比古
- 届け 私たちの思い 歌にのせて
詩・曲＝日音協新潟県支部
- 大好き 沖縄 詩＝下総大 曲＝後藤雅裕
- かえりみち一陽が生まれてー 詩・曲＝大門悟
- 歌って下さい 詩＝杉崎哲夫 曲＝瓦井孔二
- 基地はいらない 詩・曲＝瓦井孔二
- これ以上 海を 詩＝福島の人々の思いから
曲＝坂口美日



【エンディング】沖縄県支部の仲間たちにステージに残っていたら、毎年5月日音協の沖縄行動に参加している仲間たちを加えて、今、改めて沖縄のたまたかのテーマソングとなった「沖縄を返せ」、そして日音協結成の年、嘉手納基地包囲行動のテーマソングとなった「やさしい心を武器にして」を会場全体でうたいました。実行委員、スタッフの紹介、県実委のあいさつ、中実委事務局長のまとめ、長野県支部の決意表明をはさんで、最後は「インターナショナル」の全体合唱で2日間の音楽祭を締めくくりました。



「南風(ふえーぬかじ)」最終

沖縄の未来、日本の未来、 多様性の世界をともに創ろう

沖縄県支部長 平良昌史

はいさい！沖縄音楽祭が無事終わりました。参加された皆様、楽しめましたでしょうか。音楽祭の意義を感じてくれたでしょうか。

沖音協としては、労働運動、平和運動、県内の音楽仲間と音楽祭の準備や当日の運営を担う中で、絆を深めることが出来、意義深いものとなりました。

また、全国の仲間と交流ができ大きな成果がありました。各労組に働きかけをする中で、日頃からの連携の大切さが分かり、また、懐かしい人とも再会が出来るなど得るものが多い音楽祭でした。ご協力いただいた皆様に改めて感謝申し上げます。いっぺーにふえーでーびる。

ロシアによるウクライナ侵攻、イスラエルによるガザでの虐殺はレバノンにも拡大、罪のない人々が犠牲となり、憎悪の連鎖は止まりません。排外主義の右翼が台頭するヨーロッパ各国、新自由主義が跋扈し、格差が拡大する中、アメリカでのトランプ主義は、自分さえ良ければよいと思う人が増えた結果です。しかし、トランプ大統領誕生を阻止するために、人々は大同団結しています。

日本においては、新しく誕生した石破首相は、幹事長時代に沖縄の自民党国会議員を力で屈服させ、辺野古新基地建設の扉を開けた張本人です。国民生活より戦争の出来る国づくりを進める日本、私たちは、多様性を認め合う世界を目指す人たちとの連帯の輪を広げなければいけません。辺野古新基地建設をはじめとする、沖縄での基地増強に反対する長い闘いでは音楽が欠かせません。お互いを本当に思いやる関係を望み、痛んだ心や悲しむ心を深く慮る「チムグクル」をあらためて心に刻み、その痛みを分け合い、ゆるし合うこと、反戦平和の願いを強く優しく沖縄から歌を発信し、日本を、世界を変えていきましょう。

一人ひとりの力は弱くても、繋がれば大きな力となる。まじゅんチバらなやーさい。ともに頑張りましょう。

金田事務局長による「まとめのことは」 (要約)

第 55 回はたらくものの音楽祭に参加の皆様、大変ありがとうございました。

まずは、地元沖縄県支部の仲間、そして実行委員長を担っていただいたオール沖縄会議の高里様はじめ関係者の皆様、また、スムーズな進行をしていただいた司会の皆様、ステージスタッフの皆様、音響関係の皆様、改めて感謝申し上げます。全体の拍手でお礼に変えたいと思います。大変ありがとうございました。

今回の音楽祭は、沖縄県内の労働組合・平和団体・音楽サークル・音楽家の皆様のご協力を得ながら開催することができました。また、昨夜の全国交流会では地元沖縄県支部の企画のもと沖縄文化にも触れながら楽しい一夜を過ごせたと思います。

さて、音楽祭の出演団体は 14 支部中 13 の支部、1 つのブロック合同、10 のサークル・個人、3 つの産別音協、3 つのスポットライト、3 つの中央企画、ゲスト、オープニング、エンディング合わせて 36 の発表・演奏がありました。

全国の仲間がこの沖縄祭典の成功に向けて日々の創作活動や演奏活動を強化してきた賜物と感じております。

発表作品もやはり平和や社会問題をえぐりだす作品が多かったのではないのでしょうか。

一つ一つの作品の評価は致しませんが、いずれの作品・発表も平和を求め、許せないものは許せないといったメッセージが伝わったのではないのでしょうか。いずれも素晴らしい発表であったと感じています。

今現在、自民党の総裁選、立憲民主党の代表選が行われていますが、我々働くもの、働いていたもの、勤労国民の声が反映される政治を作っていただきたいですし、そうした政治を作るのも私たちの活動にかかっていると思います。

私たちの組織も高齢化が進み、若手の育成が最大の課題となっていますが、活動をつうじて仲間を増やし、つくり・歌い・広め・つなぎ合うという活動を強化していかなければなりません。

現在、新たな作品を日音協ソングとして募集しています。

私たちは、歌・音楽をもって世の中を変える、まさに今回のテーマである「音楽は世界を変える」を実践していきましょう。

さて、来年の第 56 回音楽祭ですが、先日の全国代表者会議で確認した、長野県で開催することとしております。開催方法などを含めてどのような形でできるのかを追求しながら、長野音楽祭に向けて準備を進めましょう。



若い会員の交流会（2面に関連記事）

命をつなぐ地球環境を

日音協のテント前コンサートは11時から13時までを目安に開催し、オープニングの『あたりまえの地球』に始まり、松本敏之・Rico & Tatsu・狭石啓子・ういみん、といった日音協のグループ・個人だけでなく、反原発うたいたいや、菜葉坂で行動を共にしているチャレンジャー周平さん、守屋真実さんの演奏もあ

さようなら原発全国集会が9月16日、東京・代々木公園にて「命をつなぐ地球環境を」をテーマに開催され、約5000人が集まりました。当日朝、公園は小雨模様で、テント設営時には一時雨足が強まり心配されましたが、ブリス開始の11時にはすっかり上がり、集会時には足元も乾き、パレードまで賑やかに行われました。



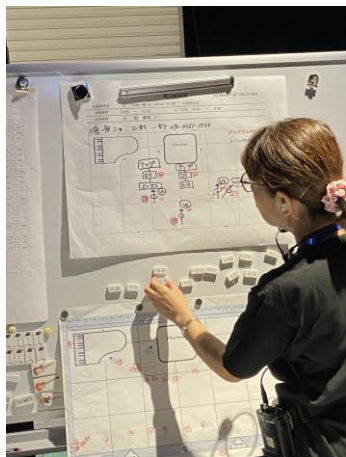
りました。特に周平さんは『ワンマンバンド』と称し、アコーディオンを抱え、太鼓類を背に装着して繋いだベルトで操り、トランペットを吹いたりバンジョーを鳴らしたりと、道行く人の目を惹いていました。

15時からのパレードではデモ出発地点近くに場所をかせ、送り出しの演奏を行いました。私たちのうたに共感しうなづく人、歌詞カードを求めるひとも多く、一体感に包まれたひとときでした。

(森理子)



東京都支部の皆さん、ごくろうさまでした。



ステージスタッフの皆さん

暗い上手(かみて)に陣取り、各演奏グループから提出された舞台配置図をもとに、次の演奏に向け、スタッフの動きを確認。今回はスムーズな展開で進行し途中で休憩を取り、時間調整しました。(佐藤)

いつもご苦労様です

水道橋だより

▼第55回はたらくものの音楽祭（沖縄音楽祭）が終わりました。開催に向けた沖縄県実行委員会の皆さん、ありがとうございました。笑顔笑顔で楽しい音楽祭でした。第56回は来年長野県で開催することになっています。今から準備を進めています。よろしくお願いいたします。

▼音楽祭終了後、有志7名でツアーに参加しました。沖縄のヤスさんに案内していただき、伊江島の又チドゥカカラの家（反戦平和資料館）を訪問したり、辺野古のテントで「沖縄今こそ立ち上がろう」「ふるさと沖縄」「座りこめここへ」を歌い、歓迎されました。▼また、埋め立てが進む大浦湾の全貌が見えるという灯台跡から見渡すことが出来ました。行き方を教えてくれた地元の人「去年と風景が違っている。悲しいよ。」とポツリと言っていたそうです。

（青森のヤス）



歌の力が物語るもの134

菜葉坂つた行動 9/6（5200回）報告 Rico

【参加者】かおるさん、守屋さん、周平さん、ゆきさん、イサさん、達哉、森 計7名

開始時刻の18時半はすでに薄暗い。日が短くなってきた。先週末してくれたSさんが本日も参加。お名前は「ゆきさん」。来てくれてありがとう。

『あたりまえの地球』から始めた。かおるさんの舞うような手話がつく。『私たちの暮らしは私たちが決める』も。手話の歌が増えていく。昼間は暑いけれど風は秋になってきている。米不足で新米の供給が待たれるところ。『双葉

の秋』を歌う。スーさんの詩。そういえばスーさん最近来ないね。スーさんも腰を病む人だから、きついのかな。今日は清美さんが風邪でお休みとの連絡があった。みんな、体をいたわりつつ、それでも怒りの火は絶やさない。新聞にデブリ採取断念にまつわる記事が載っていた。下請け会社の、さらに下請けの人たちが、放射能濃度の高い危険な現場で、重装備の防護服の狭い視野の中パイプの取り付け作業をしていたのだ。東電はそこにいなかった。立ち合いも、確認もしていなかった。そんな無責任なことがあるか。そ

んな無責任な会社が柏崎刈羽を動かすのを、信用できるか。『私たちは許さない』の歌に力がこもる。

汚染水放出だっけそうだった。『海水調査では放射能の影響はない』と言っているが、海水で放射能が測定されたら最後でしょ。海洋生物のなかでの凝縮と、食物連鎖こそが恐ろしいのに。安全神話を引きずっているようだ。『水に流すな』『フクシマを繰り返すな』。そして『DO！廃炉』。周平さんは歌詞カードを見ず、マイクを持って朗々と歌う。私も、目は血だけど馴染んできて、いっぱいいっぱい感は無くなってきた気がする。そして達哉の『リクエストで久しぶりの』『答えは我らに』。瓦井さんの『創った『風に吹かれて』の替え歌だ。『10年後 20年後 答えは我らに』』と歌う。あ

の事故から13年が過ぎたが、この先どんな答えが待っているのだろうか。

沖縄の歌を。『沖縄に基地はNO！NO！NO！』『ふるさと沖縄』『芭蕉布』。そして新曲、宮森小学校への米軍機墜落事件を悼む『630の誓い』（海勢頭豊作）。沖縄ではまた米軍による性暴力事件が起き、また、隠蔽がおきた。来週の金曜日は米軍性犯罪に対する院内集会から官邸前抗議行動がある。菜葉坂はお休みして官邸前に集中しよう。最後は『声よ集まれ歌となれ』。『君と一緒に闘える』という歌詞に胸が熱くなる。9月16日は代々木公園で「さよなら原発全国集会」がある。『反原発たいたい』も日音協のテント前コンサートで歌おう。みんな集まれ！

どん行

(183)

飯島貞親

がとれなくなった場合には、個別農家の所得を保障するという仕組みが、ありえないはずなのに。

▼この夏、スーパーからコメが消えた▼原因は、訪日外国人が増えたことや地震・台風のために買い溜めに走る人が増えたからだと言われている。しかしそれらは原因ではなく結果だ。そのような変動要因でたちまち店頭から米が消えてしまうような市場の脆弱性、その背景にある農水省の積年の悪政こそが根本要因だ。この騒ぎを、日本文明の根幹としてのコメをどう守っていくのかに思いを馳せる機会にしなければならぬ▼減反政策は、1970年に始まり約50年間も続いた。それ以前は、1942年に政府が公定価格でコメを買い取り、配給する食糧管理制度がとられてきたが、戦争直後の飢餓状態を脱して生産も消費も落ち着きを取り戻した。が、それを実現するための財政負担は耐え切れないほどに膨らんだ。そのため、1970年頃から何も作らないと補助金が出るという政策が始まった。省庁間では、農水省は金食い虫扱いされコメは政争の道具にされ続けられてきたとも言える▼減反政策は、汗水たらして田んぼを守ってきた農民に対する侮辱だ。市場の変動に委ねながらも農家の努力ではどうにもならない原因で採算